

教材・支援機器活用実践事例(特別支援学校版)

	実践名(実践年度)	iPadアプリを活用した文字認識(音と文字の対応)の取り組み(H30年度)
参加する授業について	教科名等 (該当する教科名等を選択。当てはまらない場合はその他を選択し、次の単元・題材名の欄に記入。)	☒ 国語 ☐ 社会 ☐ 算数/数学 ☐ 理科 ☐ 生活 ☐ 音楽 ☐ 図画工作/美術 ☐ 家庭/技術・家庭 ☐ 体育/保健体育 ☐ 道徳 ☐ 外国語/外国語活動 ☐ 総合的な学習の時間 ☐ 特別活動 ☐ 自立活動 ☐ 各教科等を合わせた指導 ☐ その他の教科 ☐ その他()
	単元・題材名	ひらがなを覚えよう
	授業の目標	ひらがなを正しく覚えて、読み書きができる。
	観点別学習状況の評価の観点 (教科の特性により設定した観点がある場合は「その他」を選択し記載。)	☒ 「知識・理解」 ☐ 「技能」 ☐ 「思考・判断・表現」 ☒ 「関心・意欲・態度」 ☐ その他()
	自立活動の要素	☐ 健康の保持 ☐ 心理的な安定 ☐ 人間関係の形成 ☐ 環境の把握 ☐ 身体動き ☒ コミュニケーション
学習(集団)の実態	学部・学年・人数	☐ 通常の学級 ☐ 通級による指導 ☐ 特別支援学級 ☒ 特別支援学校 ☐ 就学前 ☐ 小学生 ☐ 中学生 ☒ 高校生以降 ☐ 特定されない
	対象の障害	☐ 視覚障害 ☐ 聴覚障害 ☒ 知的障害 ☐ 肢体不自由 ☐ 病弱・身体虚弱 ☐ 言語障害 ☐ 自閉症 ☐ 情緒障害 ☐ LD(学習障害) ☐ ADD(注意欠陥/多動性障害) ☐ その他
	子どもの課題(特性・ニーズ)	☐ 聞く ☒ 読む ☒ 見る ☐ 話す ☐ 書く ☐ 運動と姿勢 ☐ 計算する ☐ 推論する ☐ 日常生活活動 ☐ 社会性・コミュニケーション ☐ 不注意 ☐ 多動性・衝動性 ☒ 覚える・理解する ☐ 時間的・空間的・人的交流の制約 ☐ その他 中学部より少しずつひらがなを覚え始めているため、高等部でも文字認識の拡充を図りたい。
ICT活用について	使用した支援機器・教材の名称 (使用した支援機器・教材の名称を記載。なお、特定の製品に特化した実践の場合は製品名を記載。)	iPadアプリ「ディスレクシア音読指導アプリ 単音直音統合版」 鳥取大学 (無料) 
	活用のねらい(概要)	A コミュニケーション支援(☐ A1意思伝達支援 ☐ A2遠隔コミュニケーション支援) B 活動支援(☐ B1情報入手支援 ☐ B2機器操作支援 ☐ B3時間支援) C 学習支援(☒ C1教科学習支援 ☒ C2認知発達支援 ☐ C3社会生活支援)
	活用方法	文字と読みの対応を学習することで、文字の認識を身につけることができる。
効果・評価	ICTを活用した授業での子どもの様子や変容および授業の評価	年度当初は、自分の名前のほか、いくつかのひらがなしか読めなかったが、読むことのできるひらがなが増えてきた。タブレットを操作しながらの学習に関心が高い生徒だったため、学習に意欲的に取り組んでいた。また、他の文字(カタカナや漢字)に対しても興味を持つようになってきた。
資料	図・写真・表等 (生徒の写真は個人情報公開の確認を取っているものとする。)	